

# 第1回 仙台市幼児教育の指針策定検討委員会 議事録

## 1 日時

平成29年6月2日（金）10時00分～11時50分

## 2 会場

仙台市役所本庁舎2階 第三委員会室

## 3 委員の出欠状況

委員8名中8名が出席

### (1) 出席委員

佐藤哲也委員（委員長）、庄司昭博委員、菅原弘一委員、関澄子委員、  
高野幸子委員、布宮圭子委員、森敦子委員、横澤行夫委員

### (2) 欠席委員

なし

## 4 仙台市職員出席者

子供未来局職員11名、教育局職員1名が出席

子供未来局長	福田 洋之
子供未来局 次長（兼）幼稚園・保育部長	金子 雅
子供未来局 幼稚園・保育部 幼稚園担当課長	松本 啓伸
子供未来局 幼稚園・保育部 運営支援課長	郷家 貴光
子供未来局 幼稚園・保育部 運営支援課 主幹	田中 眞由美
” 主幹（兼）運営係長	佐藤 裕美
” 企画係長	野中 文典
” 指導係 主査	京谷 弘子
” 企画係 主任	湯尾 雅枝
子供未来局 子供育成部 子供家庭支援課 主幹	湯村 倫子
子供未来局 子供育成部 子供保健福祉課長	山田 洋子
教育局 学校教育部 学びの連携推進室 指導主事	豊島 貴之

## 5 次第

- 1 開会
- 2 委嘱状・任命状交付
- 3 子供未来局長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 委員長選出
- 7 委員長挨拶

## 8 議事

- (1) 委員会の運営に関する事項について
- (2) 仙台市幼児教育の指針の策定について
- (3) 本市の幼児教育の現状と課題について

～仙台市幼児教育の指針策定にかかるアンケート調査の結果について～

- (4) 意見交換
- (5) その他

## 9 閉会

## 6 配付資料

- 資料1 仙台市幼児教育の指針策定検討委員会 委員名簿
- 資料2 仙台市幼児教育の指針策定検討委員会設置要綱
- 資料3 仙台市幼児教育の指針策定検討委員会の運営について（案）
- 資料4 仙台市幼児教育の指針の策定について（案）
- 資料5 仙台市幼児教育の指針策定にかかるアンケート調査の結果

---

## 要旨

### 【1 開会】

#### ○事務局

ただいまから、第1回仙台市幼児教育の指針策定検討委員会を開催いたします。開会に先立ちまして事務局からお知らせいたします。

始めに、会議の進行につきましては、議事に入るまでの間、事務局を担当します子供未来局運営支援課の、わたくし、野中が司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

次に、会議の公開・非公開の取り扱いにつきまして、後ほど議事の中でご審議いただく予定でございますが、それまでの間は公開という形で進めたいと思いますので、ご了承を賜りますようお願いいたします。

次に、議事録を作成する都合上、録音をさせていただきますので、ご了承願います。発言の際は、机上のマイクをご使用くださいますようお願いいたします。

最後に、本日の資料の確認でございますが、事前に送付いたしました、次第、資料一覧、資料1から資料5まででございます。また、本日、席次表と仙台市職員出席者名簿を配付しております。足りない資料がある方は、お手を挙げてお知らせ願います。よろしいでしょうか。

それでは、次第に従って進めて参ります。

### 【2 委嘱状・任命状交付】

#### ○事務局

初めに、委嘱状・任命状の交付でございます。本来であれば、お一人ずつ交付させていただくところでございますが、時間の都合上、皆様の机の上にお配りさせていただいてお

ります。ご了承を賜りますようお願いいたします。

### 【3 子供未来局長挨拶】

○事務局

続きまして、子供未来局長の福田よりご挨拶を申し上げます。

(子供未来局長挨拶)

### 【4 委員紹介】

○事務局

続きまして、委員の皆様を紹介させていただきます。資料1の委員名簿をご覧ください。

(出席委員を名簿順に紹介)

本会議の委員定数は8名ですが、現在8名の委員の方に出席いただいております。

よって、資料2、仙台市幼児教育の指針策定検討委員会設置要綱の第6条第2項の規定により、本会議は成立していることをご報告いたします。

### 【5 職員紹介】

○事務局

続きまして、本市職員を紹介いたします。本日配付いたしました仙台市職員出席者名簿をご覧ください。

(出席職員を名簿順に紹介)

以上の職員となりますので、どうぞよろしくようお願いいたします。

### 【6 委員長選出】

○事務局

続きまして、委員長の選出をお願いしたいと存じます。委員長につきましては、仙台市幼児教育の指針策定検討委員会設置要綱第5条第1項の規定におきまして、委員の互選によって定めることとなっております。どなたかご推薦のある方は、ご発言をお願いします。

○横澤委員

宮城教育大学の教授で、幼児教育学がご専門であり、また、保育実践理論の研究にも取り組んでいらっしゃいます、佐藤哲也委員が適任であると思います。

○事務局

ただいま横澤委員から、佐藤哲也委員をご推薦いただきましたが、皆様、いかがでしょうか。

(全員異議なし)

○事務局

それではご異議ないようですので、佐藤委員に委員長をお願いしたいと存じます。佐藤委員、委員長席にお移り願います。

(佐藤委員 委員長席に異動)

## 【7 委員長挨拶】

○事務局

それでは、佐藤委員長より一言ご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

(佐藤委員長挨拶)

○事務局

ありがとうございました。

## 【8 議事】

○事務局

これより議事に入りますので、進行を佐藤委員長にお願いしたいと存じます。なお、福田局長でございますが、次の日程の都合上、これにて中座させていただきます。ご了承願います。

それでは、佐藤委員長、よろしくお願いいたします。

○佐藤委員長

それでは、議事に入ります。はじめに、(1) 委員会の運営に関する事項について、事務局より説明願います。

○松本幼稚園担当課長

それではお手元の資料2と資料3に基づき、説明いたします。

(資料2と資料3に基づき説明)

○佐藤委員長

ただいまの説明に関して、ご質問等はございませんでしょうか。

ないようでしたら、今後これらに基づき委員会を運営して参ります。

早速、本日の議事録に署名していただく委員の指名でございますが、名簿順にお願いすることとし、今回は庄司委員にお願いしたいと思っておりますので、庄司委員、よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、(2) 仙台市幼児教育の指針の策定について、事務局より説明願います。

○松本幼稚園担当課長

それでは資料4に基づき、説明いたします。

(資料4に基づき説明)

○佐藤委員長

ただいまの説明に関して、ご質問等はございませんでしょうか。

では、私のほうから1点質問させてください。12月ぐらいに予定されている市民に対するパブリックコメント、これはどのような形でご意見を頂戴するように考えていますか。

○松本幼稚園担当課長

中間案を策定いたしまして、その中間案を仙台市のホームページに載せて、広く市民の方々にご意見をいただく形になります。

○佐藤委員長

その場合の意見は、どのような形でこちらに寄せられることになりますか。

○松本幼稚園担当課長

意見の回答用紙のひな形をつくりまして、そちらにご記入いただいて電子メールあるいは郵送でご意見をいただくという形になると思います。

○佐藤委員長

わかりました。ありがとうございます。

皆様、ほかにいかがでしょうか。ないようでしたら、議事の（3）本市の幼児教育の現状と課題について、事務局より説明願います。

○松本幼稚園担当課長

それでは資料5に基づき、説明いたします。

（資料5に基づき説明）

○佐藤委員長

ただいまの説明に関して、ご質問等はございませんでしょうか。

では、少し考えていただいている間に私のほうから1点質問させてください。2ページになるんですけども、このアンケートを実施するに当たりまして10項目分類をして、そして30の質問の作成をしていますが、これは作成するに当たって国や他の都道府県、市町村の何か先行するようなアンケート調査を参考にしたとか、ひな形にしたというようなことはございますでしょうか。

○松本幼稚園担当課長

他都市でも同様のアンケートを過去に行った事例があり、そちらを見させていただいたほか、今回幼稚園教育要領の中で設けられた項目であるとか、また、こちら事務局の運営支援課の中に保育士もおりますので、そのような職員の意見を取りまとめて30の質問を作成したところでございます。

○佐藤委員長

わかりました。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。高野委員、お願いいたします。

○高野委員

5歳児とありましたけれども、1つははっきりさせていただきたいのは、去年これを行ったとすると今年の4月から就学する5歳児、要するに6歳児もいますよね。だから、そのところを5歳児だけに絞ったのか、それとも就学前の5歳児を拾ったのでしょうか。

○幼稚園担当課長

就学前の5歳児です。

○高野委員

すると、就学前で、例えば保育所でも幼稚園でも年長さんが対象ですよ。就学前だと5歳も6歳ももう既にいますので、そう思って結構ですか。

○幼稚園担当課長

そのとおりでございます。

○高野委員

ありがとうございました。

○佐藤委員長

この5歳というのは幼稚園、保育所、認定こども園等における年長さんということですね。ほかに何かございますでしょうか。庄司委員、お願いします。

○庄司委員

事前にこのアンケートを見ましたが、そのとおりで全く違和感はなかったんですけども、幼稚園ですと小学校へつなぐという点をすごく意識して教育に臨んでいる点がありますので、逆に小学校1年生などの姿として今実態としてどういう姿があるのかというところも参考にできるとよいのかなというふうに個人的に思いました。

○佐藤委員長

ありがとうございます。例えば事務局のほうでそういった最近の調査だとかデータ、情報のようなものを何か把握していらっしゃいますか。

○幼稚園担当課長

今、私の手元にはございません。

○佐藤委員長

では、今後こちらでの議論を活性化させるための1つの資料、材料として、もし可能であればそういったものもご準備いただければと思いますので、検討の1つの課題にさせていただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。横澤委員、お願いします。

○横澤委員

この有効回答率94.6%というのは期待した数字なのか、期待以上の数字だったのか、子供未来局としてどういうふうな反応でしたでしょうか。

○幼稚園担当課長

各園、大変お忙しい中協力いただきまして、およそ95%の回答率でしたので、ほぼ期待通りの結果だったと思っております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。自由記述欄のいろいろなご意見もありますので、なかなか一度に目を通して内容を把握、理解することは難しいんですけども、今後の議論に反映させていく上でも、お時間を見つけていただいて、各委員につきましては熟読いただけたらありがたいと思っています。

ほかに、いかがでしょうか。

○横澤委員

すみません、もう1点ですが、先ほど高野委員のほうから5歳児、6歳児という話が出たんですけども、幼稚園と保育所のいろいろな話の中で必ずそのことが出まして、幼稚園では6歳児という言葉はないんです。いわゆる年長が5歳児という表現ですので、その辺について、今後統一したほうがよいのではないかと感じました。

○佐藤委員長

わかりました。ご意見ありがとうございます。少し検討しながら対応させていただきますので、よろしく願いいたします。

ほかには、いかがでしょうか。

そうしましたら、また何かお気づきの点等ございましたら改めてご意見、ご質問等いただ

ければと思いますので、次の議題の4、意見交換に入りたいと思います。今回は初回ですので、委員の皆様から自己紹介と、これまでの説明なども踏まえ、幼児教育の現状と課題に関するご認識などにつきまして、お話ししていただきたいと思います。

それでは、名簿の順に、庄司委員からお願いします。

#### ○庄司委員

今回の指針策定に当たって、一通り私も幼稚園のほうで確認をしながら見てきたんですけども、キーワードになるのはやはり、社会全体でどういうふうな認識を持っていただけるかというところがすごく大きいのかなというふうに思います。

今現在、社会で見て幼稚園と保育園というのは、保護者の方に聞いても、例えば幼稚園の教諭にしても保育士さんという話が出てしまったりとか、逆に幼稚園教諭という立場がなかなか理解されていない社会があるのかなというふうに私はずっと感じておりました。

これに関して、やはり社会の全体の認識として、または親の感性を上げる努力というものをこの指針の中に盛り込むことによって、仙台市の子どもはこういう姿で子育てをしたり、また幼稚園であったりとか保育園であったりとか、その姿をイメージできるような形で持っていったあげるのが正しいのかなというふうに感じております。

私の経験はさほどないですけども、できるだけ力を発揮できるように何回かの会議で発言させていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。以上です。

#### ○菅原委員

自己紹介も含めてということでしたので、今六郷小学校で校長を務めておりますけれども、以前教育委員会さんのほうでお世話になっていたことがあります。もう7、8年前になりますが、その頃担当していた業務が幼保小の連携で、その頃スタートカリキュラムを小学校で作成するという事に着手した頃でした。もう本当に手探りの状態でやってきて、今ようやくどの小学校でもそういう計画は備えているというような段階に来ているというふうに認識しております。

それで、そんなことも担当していたということもあってこの場に自分はいるのかなと思っているんですけども、改めてこのアンケート結果を拝見して、幼児教育というか、この時期の課題としてそうなんだろうなということと、これは小学校に入ってもそのまま課題として小学校の先生方が感じていることがここにあるなということを感じながらこのアンケート結果を拝見させていただきました。

これらの課題に小学校ではさらに学力をどうするかという課題が上乗せになって、なかなか学校運営も先生達の授業もすごい厳しい運営を迫られているというような感じで小学校のほうでは見ます。

そういった面で、アンケート結果の中に小学校と幼稚園との接続のところで、小学校との連携が薄いために入学後の不安があるという記述もありましたけれども、このところはスタートカリキュラムというものを小学校のほうで備えてはみたものの、やはり実質その中身の、本当のところ何をどうすることが幼児期の教育と小学校の教育をつなぐのかというのは、まだまだこれからなんじゃないのかなというふうに感じているところなんです。

それを感じるためには小学校や、小学校の先生もなかなか余裕がないところではあるんですが、幼児期の教育というのが何を指して、それぞれの園や保育所でどんなことがされて

いるのかということをもう少しよく知らなければいけないというのは感じているところでございます。

そんなところをこの指針の中にどれくらいの範囲で盛り込むのかということとは今後の検討になるかとは思いますが、その接続のあり方みたいなところも入ってくるとしたら小学校の立場でどう受けようと、今度は小学校につなぐ幼稚園、保育所の立場としてどうというふうなところを検討していけるといいのかなと思っています。以上です。

#### ○関委員

私も日頃感じているのは幼児教育の正しい理解と、そして重要性を社会の方たちがどれくらい理解しているのか、幼稚園、保育園ともごっちゃになっていて、ひとくくりで保育士みたいな形になっていて、なかなか幼稚園教諭という言葉を使ってくださる方も少ないし、現状はみんな保育園も幼稚園も一緒なんだろうというようにとられるのが非常に残念だと思っています。

認定こども園になりまして思うことは、やはり1歳、2歳は保育を中心とした活動を行っていますけれども、3歳児からは教育に重点を置いて活動していくということを念頭に置いて行っていますので、その辺を父兄とか、それから地域の方たちとか社会でどのような認識で捉えられるのかなというところがちょっと課題になっているかしらということを感じています。

それから、先日、今週の火曜日なんですけれども、国見小学校で土曜日の運動会が延期になり、火曜日になったんです。それで、何か厚かましかったんですけれども、学年の年長組の子どもに先生たちがぜひ運動会を見せてあげたいということで、ひとまず国見小学校にアプローチしていいですかということがあって、運動会を見せてくださいと、100名ぐらいの子ども達が行きますけれどもいいですかと言ったところ、快く引き受けてくださったんです。

先ほど菅原先生がおっしゃったように、幼保小連携ということで一生懸命幼稚園と小学校の連携というものを深く図ろうとしていることはわかっているんですけども、小学校の先生がもっと幼稚園のほうに歩み寄るような時間があったらいいのかなということと、幼稚園の先生もちょっと学校に行ける時間、特に近隣の小学校とかに行ってみられる時間、そういうところを何とか設定していただけないのかなということを感じています。

実際子ども達が運動会を見て感想をそれぞれ持っていたようで、職員室に来てわざわざ教えてくれたんですけども、「先生、僕達も私達も来年ああなるんだよね」と、「大きくなったらあそこの小学校に行くんだよね」というようなことをすごく意気揚々として語っていた姿が、これが幼小の中で先生達もご理解できればスムーズな連携がとれていくのかなということがありますので、やはり幼児教育の理解ということも小学校の先生にわかってほしいことです。

子どもは幼稚園でぷつと切れて小学校1年生になるんじゃない。それはわかっているけども、なかなか実践できない部分の歯がゆさが私にはありますので、今後その辺をしっかりと幼児教育の認識を社会にどうやって示していったらいいのかということと、また、なおかつ小学校の先生たちがどんなふうな幼稚園という教育、幼児教育というものを見つめていってくださって、そして、子どもの育ちが切れ切れになるんじゃなくて、流れを持って育っていくんだよということをみんなでわかっていくことが認識として必要ではないかなということ、

そこを折り込んでいただけるといいのかなと思っております。

#### ○高野委員

幼稚園さんの2人の先生のお話を聞いて、保育所とはまた違うのかなというふうに。私は幼稚園のほうも保育所のほうも同じ子どもなので、たまたま行ったところが違うということで、余り意識はしたことはないんです。幼稚園も保育所も本当に意識しないでやっているんですけれども、ただ、保育所はどうしても生活が直接それぞれの個々の家庭の生活が保育所と密着になりますから、だから、そういった意味ではちょっとまた違うのかなというふうには思っていますけれども、私はとてもでもないけれども、今の子ども達が大変危ないと思っています。

今の子ども達は何がないのかなという、先ほどいろいろなところでも仙台市のほうからも説明あったとおり、親が忙し過ぎる。だから、愛着関係が足りない。読めば全くそのとおり。それをこれだけの意見が出るということは、みんなちゃんとわかっているわけですね、今の子ども達の状況が。でも、格差社会と言われながらも本当に保育所が、格差どころか、貧困等の家庭、その子どもと親と向き合わなければいけないということがいっぱいありまして、本当に私は全部の幼稚園、保育所を把握してはおりませんが、やはり保育所を通して今この子ども達がこんな育ちで将来大きくなったらどうなっていくんだろうという不安はかなりあります。

それで、やはり臨界期というのはありますから、ある程度修正のきく年齢と今ここでやらなければいけないということがありますから、できたら先ほど最初に先生がおっしゃったとおりに、やはり就学前のおぎゃーと生まれてから6歳までいるわけですね。そうするとこの6年間で大体の基礎、人格形成とか人間関係の基礎ができるというふうに思っていますから、2カ月、3カ月から保育所で預かると、そこから養護と教育が必要です。

保育所というと養護だけ一生懸命やっているように捉えがちですが、おぎゃーと生まれた子にご飯を食べさせて、ミルクを飲ませて、お世話をし、声がけして、そして、そこに教育がなければ、養護だけということはありません。養護だけだったら犬とか猫を飼っていればいいわけで、そうじゃなくて私達が人の子を育てるわけですから、そこにはもう教育がなくてはあり得ないということで、親ができないからしょうがないよじゃなくて、親ができないなら保育所でどこまでできるんだということでやっていますので、そうやって見ると、先ほども誰か言ったけれども、働きながら子どもを育てているのが今の親御さん方、でも、本当は子育てしながら働くんじゃないのとは私は思うんです。それが親の就労が優先しているんです。国でも何でも親の就労はある程度保障してくれるんです。では、そこに子どもの育ちはどうなんだろうというのは余り大きな問題になっていないような気がするんです。

だから、私は保護者にははっきり、もう私も73歳ですからお母さん達のおばあちゃんみたいな年齢ですからはっきり言うんだけれども、例えば子どもが熱でも迎えに行けません、預かってください。だから病児保育も今いろいろ出ているというけれども、私は言うんです、お母さん達に、子どもの育ち、子どもの今の状態、病気とかそういう状態よりも大切な仕事ってありますかと私は保護者の方に言います。今ここで手をかけてあげなければ、今ここで愛着形成を図らなければどうなるということを、もううるさいくらい切々と毎月の園だよりとか、そういうところで親御さんにわかっていただくように言います。

今のお母さん達というのは、あれやりなさい、これやりなさいというのは嫌いますから、

本当に薄皮を1つずつ剥がすように、その親の立場に立ってというのはうんと言葉では簡単なんだけれども、大変難しいです。でも、それをやっつかないと子ども達、皆さん、ここでも出ているけれども、愛着関係が薄いか、逆に親に甘えることを知らない子どもとか、そういう子どもがすごく多い中で、幼稚園にしても私達にしても、今この子ども達に何をしなければいけないかということの本気になって考える私は、もう時期としては遅いんでしょうけれども、とっくに子育て事業ができる前から、少子化と言われて35年ですよ。今まで何をしてきたのか、そういうふうに思います。

これから何回かあるので、ご意見はまた言わせていただきますけれども、幼保小の連絡会にしても出した子ども達の個々の生活はそれこそ継続しています。保育所が終わったから、はい、学校任せだよということではない。だから、私達は常に教頭先生とか例えば児童館さんからも卒園した子の問題があれば一緒にご連絡をいただいてケース会議をやっていくとか。だから、送り出したからいい、学校ももう保育所とは関係ないということじゃなくて、やはりそういうことを密接に。幼保小というのは連絡会があって行けばいいとか、そういうことでなくて、日常生活の中でも決して切り離せる問題ではないと思いますので、とにかく仙台、仙台市だけの子どもがどうのということではないんでしょうけれども、せっかくできたこの委員会がすごく子ども達一人一人のこれからの育ちに、そして保護者支援のために、私はプラスになるような委員会になっていただければなというふうに1回目にして思いました。

ちょっと長くなりましたけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

#### ○布宮委員

自己紹介ということもありますけれども、私は今小学生の娘と大学生の娘の母親です。幼稚園に16年勤め、その後、今保育園に15年以上勤めていて、幼児教育は三十数年になるので長くこの現場にいます。

私は本当に高野先生がおっしゃったように、今回この資料を隅から隅まで見させていただいて、何て悲しい時代になったんだろうということをもっと一番に思いました。子どもが子どもとしてこの世に生を受けて生きていく上で、親に愛されていないということを感じたり、愛着がきちんと持っていないとか、自己肯定感が低いとか、いろいろなことが書いてあって、私達が現場で目にしている子ども達の状況が本当にこのアンケートで言い当てられていたと思うんです。

それを見て、では、私達が何をするのかということはこの数年ずっと考えてきていますけれども、では幼稚園、保育園の現場でこのことに取りかかったとして、本当に小学校はどうなんだろうと。さっき校長先生おっしゃったように小学校の現場も非常に大変な現場で、娘も小学生なので授業参観やいろいろな行事を見せていただきますけれども、先生達のご苦労は私達が育ったときとはもう全然違うものになっていますし、親の協力体制も学校に協力しましょうというような方ばかりではなくて、逆に言うと言ってやれじゃないですけども、これもあれもやってもらいたいのに何でやってくれないのかしらという感じです。幼稚園、保育園に対してもそうです。

では、中学校ではそれが無いかというと、本当に中学校の先生達も授業のほかに部活、土日にもそれに捧げて、本当に子どものためにやっつかさって、熱心な先生が心を病んでしまったりとか、そういうケースもたくさん聞いています。

それから、高校生も同じようなことで、高校でも、授業参観の前に先生からお話があった

り、入学の校長先生のご挨拶で生活リズムを整えてくださいという、何という時代なんでしょうと思います。

この制度は誰のためのものなんだろう。子どものためのものじゃなかったんでしょうか。働く親を支えるということが中心になっているような世の中で、子どもが置き去りにされているなということを実際に目にします。

では、若い職員がどうなっているんだろう。多分この積み重なっていないものが今若い保育士や幼稚園教諭にもろに出てきていて、最近園で買い求めた「若い保育士のマナーQ&A」みたいなものを見ましたら、雑巾の絞り方が図でかいてありました。もうそんな時代なんだなと。結局若いというか、学校を出てきた方たちが雑巾も絞れなければ、芋煮会で芋煮もつくれない。家庭でやってきていないので経験が乏しい。そういう方たちが現場で教諭、保育士と呼ばれているわけですから、子ども達にさらに手渡せるものが減ってきている。では、どうすればいいんでしょう。もう私は本当に嫌になるというか、逃げたくなるなど。

だけれども、今回この指針の策定委員、とても重いお役だったんですけども、この現場の現状を皆さんにわかっていただいて、一人一人のお母さん、お父さん、それから一人一人の幼稚園教諭と保育士が本当に子どものために手を携えて、子どもは未来なので、未来をつくるすばらしい仕事に関わっているんだと。お父さん、お母さんが子育てって幸せなんだと思えるような、そんな仙台市の明るい未来に向かっていけるものに少しでも関われるということは私も幸せなことだと思ってこの場に参りました。

課題はとても多いなと感じていますが、できれば若いお母さん達が読んでわかりやすい、「ああ、そうか、子どもを育てるってうれしいことなんだな」と思えるような文言の指針になるといいなと。解説書がないとわからないようなものではなくて、読んで「そうか」と納得できるような、そんなものをつくりたいな、つくってほしいなというふうに思って参りました。

まとまりませんけれども、力を合わせていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○森委員

私もこのアンケートに、1月ぐらいでしたか、回答いたしました。その中でやはり改めて幼児期に育ててほしい姿というところから参りますと、健康な心と体というところでは体というところでちょっと最近転びやすい子どもということが多いなというふうになって、先生に対しても地味な体づくり、そういうところでの観点で研修などを行っているということからも、そういうふうな姿が見られているんじゃないかなと思っています。

また、健康な心というところなんですけど、本当にすごく愛されて、愛着に満ちた環境でというところと、あとは本当に大人中心で子どものことをどんなふうに思っていて育てているんだろうという、何か二極化されているような状況で、そういう心の中が満ち足りていない、そういうお子さんも確かに増えているなというふうに感じております。

それから、この中にもありましたけれども、少しずつ落ち着きのない子ども、それから自分でやろうとする力、それから困難なところに立ち向かおうとする力とか、やはりそういうところも、みんながみんな持っていないとは申しませんが、少なくなってきたんじゃないかなというふうに三十数年携わって感じているところでございます。

そして、保護者の方なんですけれども、先ほど申しましたように二極化しているというか、

本当にお子さんのことを自分よりも、もう本当に何よりも子ども中心というふうに考えていて、そこにいろいろお金も注ぎ込んだりとか時間を費やしたりとかすることで自分自身を苦しめているような、そういう保護者もいる反面、全く子どもというよりは自分の生活、自分の気持ちが中心というか、そのことで子どもの存在はどうなっているのというふうになんて不安になるような、そういう保護者が私の今まで勤めていた保育所の中では両極の保護者が増えているなというように感じております。

それからあと、保育士自身なんですけれども、やはり先生方もおっしゃっていましたが、保育所というのは養護と教育が一体となっているところをございますけれども、法的なことでは保育とか教育とか学校教育というふうには呼び名は変わっておりますけれども、幼児期における教育というところではこの内容は同じなんじゃないかなと私は思っております。

ですが、社会的な何か認識といいますか、そういうところではやはり保育所は養護の面が何か強くクローズアップされているようでございまして、その中の要因としてもやはり保育士自身が養護だけじゃなくて、高野先生がおっしゃったように本当に生まれてからそれがもうそもそも教育が始まっているんだよということをきちっと言語化して、保護者の方とか社会の方にお伝えするというのが苦手だったのかなと。でも、そういうことをしていけないと、なかなか保育士の向上につながらないんじゃないかなというふうに思っております。

宮城県でもこういう指針みたいなのがでていたんで、ちょっとそれを読み直してみたいんですけども、仙台市でも改めて学ぶ土台づくりと申しますか、幼児期に大切にしていきたいことということ、せつかく小学校、幼稚園、こども園、そして保育所が集まりましたので、しっかりと土台づくりされていけたらいいなと思いますし、その中の一員として少しでもお役に立てたらなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### ○横澤委員

私も幼稚園に関わってもう47年目になりますけれども、お人形社幼稚園、お人形社第二幼稚園の園長をしていたんですけれども、この4月からは第二幼稚園の園長ということでできております。また、長年、幼稚園PTA連合会という組織があるんですけれども、その副会長という立場でもPTA連合会を代表して出席をしております。

昨年、仙台市の今後5カ年の教育を考えるという策定委員に、幼稚園のほうから初めてメンバーに選ばれました。今までそのメンバーには幼稚園からは入っていなかったんですけれども、幼児教育の必要性を重要だと考えていただいたのかと思います。

ただ、それに出席して非常に残念だったのは、幼児教育の大切さはみんなわかっているんですけども、その話をすると幼児教育は子供未来局担当だからここでは議論しないでくださいというようなことで、結局は幼保小の連携が大切だという一言で片づけられてしまった。

そういう中で、子供未来局のほうで昨年いろいろなアンケートの調査で、子供未来局もいろいろ考えているんだなということ、うれしくなりましたけれども、今年度からこういう幼児教育の指針を考えるというふうなことに結びつくアンケートだったんだなということ、今さら思っておりますけれども、やはりどうしても我々幼稚園の立場でいうと子供未来局というのはやはり保育所を中心に考えている局だというふうに思っております。

ですから、松本課長が幼稚園担当という名前がただけでも、仙台市でも、子供未来局でも幼稚園を考えてくれるんだなというふうなことで、非常にうれしくなっておりますけれども、この委員会でもって幼児教育の大切さのようなことをより市民に認識、お母さん方に

認識できるようにアピールするにはどうしたらいいのかなということを考えながら意見交換を進めたいと思います。

先ほどお話ししました仙台市の5カ年の教育の計画を策定する会議では特にユニークだなと思ったのは、ほかの都市にはない仙台市ならではの仙台カラーというものを打ち出したいというようなことで、ですから、この幼児教育のあるところに何か、どこの都市にも当てはまるということも大切なことではあるんですけども、やはり仙台市ならではのということも考えていきたいなと思っておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

○佐藤委員長

どうもありがとうございます。

そうしましたら、最後に私のほうからですが、私は宮城教育大学で幼児教育学を担当しておりますけれども、こちら仙台に来て暮らし初めて今年で7年目になります。それ以前は兵庫教育大学、これもやはり国立大学なんですけど、そこで16年間お世話になりました。

もともと私は子育ての歴史や思想を研究していたんですが、そういうバックグラウンドがあって、兵庫のほうでは幼児教育思想史というポストを頂戴をして研究と教育に従事してきました。

ただ、兵庫教育大学というのは大学院大学で、現場の先生方が修士号をとりに2年間学びに来ると。そんな中で、幼稚園教諭や保育士さん、仕事をしながら、夜間大学院だったんです。そんなこともあるので、やはり教育思想、しかも私はアメリカをやっていたので、そのアメリカをやっておりますだけではやはり仕事にならないということで、極力現場に足を運び、いろいろな話を伺ったり、自分で保育者、保護者、子どもの姿を見ながら、二足のわらじではないんですが、保育実践についても勉強あるいは研究をさせていただきました。

私自身も現在大学1年生になる娘と高校1年生になる息子がおります。仙台に来てから、やはりこちら東北には親戚が誰もおりませんでしたので、地元、地域に馴染むにはまずPTA活動が一番だと考えまして、小学校、中学校、しかも今高等学校もPTAの役員をしております。そうすると、やはりそういう中から見えてくる学校、地域、そして何よりも保護者の問題、いろいろある中で、それをこういったそういう学校あるいは教育の本当に第一歩であるところの幼児期の実践の充実、そして、その実践を支える家庭や地域の方々のご理解や協力関係を構築していくための本当に1つの羅針盤のようなものがこの指針策定の中ででき上がっていったらいいなというふうに考えている次第です。

今、皆様方から貴重なご意見をいただきまして、私自身この委員長としての1つの役割はきつとつないでいくことなんだろうなと。保育所、認定こども園、幼稚園、そして小学校、それぞれのお考えだとか、もちろんお立場もある中で、やはり先ほど子どもが第一なんだと、子どもを置き去りにしないというようなご発言があったんですが、やはり夕べあたりのニュースですと都民ファーストなんていうキーワードが踊っていたんですが、やはり私達はチルドレンファースト、あるいは一人の子どもを一番に考えて、その子どものために何ができるのか、そして、そういった問題意識を全ての人々と共有していくためにもわかりやすい、そして希望が持てるというようなご意見も頂戴いたしました。そんな指針をつくり、みんなをつないでいくような共通の方向性を持って仙台市のお子さんたちのために、そして、幼児を巡る背後にはさまざまな大人がおりますけれども、そういった市民の幸せにつながっていくような指針を策定していきたいなというふうに皆様のご意見をお伺いして痛感をいた

しました。

そんな中で、例えば、これは私の個人的な意見になるかもしれませんが、今度幼稚園教育要領、保育所保育指針、そして幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定されますが、ちょっと注意しなければいけないようなことが何点かあるように私は思っております。

例えば、これまで幼児教育の狙い、つまり目標が生きる力の基礎となる心情、意欲、態度というふうに記されておりました。つまり、小学校以上の学校教育の1つの達成目標に向かって、できる、わかるだとか、あるいはそれを例えば点数化するなり記述的評価によって成績にしていくというようなものではなく、就学前においてはこれからたくましく人生を生き抜いていく上でのまさに基盤、根っこを育てていく。

ただ、その根っこがどういう方向に向かって伸びていくのか、その方向性を共有しながらそれぞれの幼稚園、保育所、認定こども園が一人一人の子ども的心情、意欲、態度が豊かになるように今日一日を充実し、その積み重ねが子どもの成長につながっていくという考え方で取り組んできました。

ところが、今度の改定で生きる力の基礎になる心情、意欲、態度は消えます。消えてどうなるかということ、資質・能力になるんです。これはいろいろな熟議の上の結論なんですが、ただ、保育の現場でこの能力ということに余りにもとられ過ぎると、また何かできる・できない、あるいはそれが保護者、市民にも何か能力の開発を就学前では力を入れているのかとなったときに、例えば就学前の保育の重要なポイントにインクルーシブというものがあると思うんです。

よほど重度な障害を持ったお子様でなければ公立でも私立でも民間でも受け入れて、そして、こういう言い方が適切かどうかわからないんですが、健常な子ども達と一緒に生活しながら相互理解をしたり、互いのクオリティー・オブ・ライフを高めていくと。そういう本当に共生社会のひな形、原形のものが就学前の施設にはあるという大前提で行っているんですが、そこに能力というものが入ってきたときに、例えばそういった障害を持った子ども、あるいは自閉症スペクトラムのような、そういった広義の自閉症のような子ども達、能力という観点で果たして捉えたらいいのかどうかということです。

そうした教育要領や保育指針等の何か下請のような形で仙台市の指針があるのではなく、そういった国のガイドライン、さらに例えばかみ砕きで十分に理解をし、それが実際の幼児教育や家庭における子育てに生かされていくようなものをつくり上げていくことができたというふうに思っておりますので、どうぞ皆様方ご留意のほどをよろしくをお願いをしたいと思っております。

以上、皆さんからいただいたご意見、まとまっているかどうかはわからないんですけども、希望が持てて、わかりやすく、そしてなおかつ就学前の教育に対する社会的な理解というものが深まるような、そういった仙台市らしい指針をつくっていきたいということで、私達の方向性が確認できたと思いますので、今日のところは意見交換というのはこの辺にしておきたいというふうに思います。ありがとうございました。

#### ○佐藤委員長

それでは、本日の議事の最後、(5) その他になります。

これまでの説明事項、又は、それ以外の事項について、委員の皆様からご意見やご質問等はございませんでしょうか。

○庄司委員

今、方向性に関しては十分理解できたんですけども、それを一体行政側としてどのようなPRをしていくのかとか、その点に関しては、どこからどこまでが我々委員の仕事で、逆に行政側の仕事としてどういうところをPRしていくのかというところを具体的に決めているのかいないのかを聞かせていただきたいと思います。

○佐藤委員長

庄司委員、ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

○幼稚園担当課長

今、現時点ではっきりと決めているわけではないのですが、この委員会の進め方といたしましては、ある程度基本方針なり基本目標なりということで事務局としての案をお示ししますが、協議の中でご意見をいただいた上で、それを反映させてつくってまいりたいと考えてございます。

私どももお母さん、お父さん方、市民の皆様にはわかっていただけるようなわかりやすいものをつくっていきたいと考えてございますので、その辺もご相談させていただきながら、いろいろご意見いただきながらつくってまいりたいと考えてございます。

○佐藤委員長

よろしいでしょうか。実質的に半年ぐらいのいろいろなやりとりの中からくり上げていくということなんですが、今までの積み上げというものもございまして、幅広くご意見を頂戴してということがありますので、この委員会と事務局の中でいろいろ調整をしながら策定していけたらというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そういたしましたら、本日の議事を終了したいと思います。皆様、ありがとうございました。

【9 閉会】

○事務局

皆様お疲れ様でした。次回の開催は、7月27日（木）午前10時から予定しております。時期が近づきましたらご案内を差し上げますので、よろしく申し上げます。

それでは以上をもちまして、本日の委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

以上

会議録署名委員 \_\_\_\_\_ 印

会議録署名委員 \_\_\_\_\_ 印